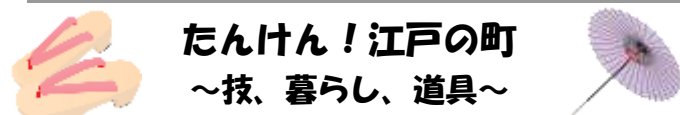


こらぼ大森イベント掲示板

こらぼ 大森 第18号 ニュース

2016年11月1日 発行

第13回 ポレポレ ECO まつり



たんけん！江戸の町 ～技、暮らし、道具～

今年は衣食住の「住」に注目です。
江戸の雰囲気を感じ取るコーナーや、
職人の技をみることができます。

- ◆日時：11/6(日) 11:30～15:30
- ◆会場：こらぼ大森 グラウンド・体育館
- ◆主催：子ども交流センター (☎03-5753-6801)

防災学習会

災害時の障害者を取り巻く課題とは ～「逃げ遅れる人々」から考える～

東日本大震災時の障害者や支援者の証言を
まとめたドキュメンタリー映画をもとに、
ワークショップを行います。

- ◆日時：12/3(土)13:30～16:00 (13:00 受付)
- ◆会場：こらぼ大森 2 階 会議室
- ◆内容：テーマ「防災：避難行動要支援者」
・ビデオ上映「逃げ遅れる人々」
・上映後、ワークショップ
- ◆参加費：無料 ◆定員：30 名
- ◆主催：NPO 法人大森コラボレーション
障がい児・者実行委員会
- ◆問い合わせ先：
miyahara7pitstation@yahoo.co.jp
070-6554-9343 (担当：宮原)

こらぼ大森ボランティア募集！

ボランティアの「はじめの一歩」-出来ることから-

- ◆内 容：お花の水やり、イベントの準備
本ニュースや冊子の袋詰め など

- ◆活動日：毎週木曜日

ご都合に合わせての調整も可能です。

- ◆申込み：右記連絡先までご連絡ください。
※事前に登録手続きがあります。

「みんなの学校」の自主上映会を行います！

“すべての子どもに居場所がある学校を作りたい”
そんな学校をつくりあげた記録の映画です

- ◆日時：11/23 (水・祝)
- 上映時間 ①10:00～ ②13:00～
③16:00～ (各 20 分前開場)

※①の時間帯は 20 名まで保育付き。

※事前に申し込みが必要となります。

希望の時間帯で申し込んでください。

- ◆会場：子ども交流センター 4 階 音楽室
- ◆参加費：大人 500 円 子ども・学生は無料
- ◆問い合わせ先：
子ども交流センター (☎03-5753-6801)

区制 70 周年記念事業 OTA ふれあいフェスタ 2016

～区制 70 周年！大田の魅力、いざ集結！！～

- ◆日時：11/12(土)・13(日)10:00～16:00
- ◆会場：
・平和島公園 (太陽のエリア)
・平和の森公園 (緑のエリア)
・大森ふるさとの浜辺公園 (ふるさとの浜辺エリア)
・ボートレース平和島 (水のエリア)
- ◆主催：OTA ふれあいフェスタ実行委員会・大田区

※詳細はこちら (大田区 HP) をご覧ください。

(https://www.city.ota.tokyo.jp/event/event_kankou/festa.html)



発 行：こらぼ大森ニュース編集委員会

TEL/FAX：03-5753-6560

E-mail：c b c 10286@nifty.com

U R L：http://collabo-ohmori.com/

住 所：大田区大森西 2-16-2

大田区民活動支援施設大森【こらぼ大森】



子ども交流センターのポレポレ ECO まつり -子どもたちを真ん中に、みんなが手をつなぐ地域のおまつり-

恒例となった子ども交流センターのポレポレ ECO まつり、こらぼ大森の芝生のグラウンドに
一日中子どもたちの笑顔があふれます。今年のテーマは「たんけん！江戸の町～技、暮らし、道
具～」です。江戸は 100 万都市とも称され、当時の世界の諸都市と比べても人口が多かったよう
です。庶民は日々の暮らしの中で互いに助け合い、豊かな江戸の文化も生まれました。今回はそ
の江戸の暮らしから学び、江戸をイメージした工作やイベントもあります。

旧大森第六小学校の跡地に、地域との協働で生まれ支えられてきたこらぼ大森も、子どもたち
のこのおまつりを応援します。上のイラストはポレポレ ECO まつりのマスコットキャラクター
「ケロとの」と子どもたちです。

- 子ども交流センターのポレポレ ECO まつり
- LET'Sこらぼ 商店街の将来
- 「こらぼ大森」と「澤田東町会」の共存共栄
- 本：地域包括ケアのすすめ
- 掲示板「OTAふれあいフェスタ2016」「ポレポレECOまつり」など

Let's こらぼ



旧東海道大森まちづくり協議会は来街者を増やす具体的な方策として数多くの取り組みをされています。同協議会の取り組みを北山会長にご紹介いただきました。旧東海道の江戸情緒ある街並みや臨海部周辺の自然あふれる公園に関するメッセージからは、こらぼ大森周辺地域の魅力を改めて感じます。

商店街の将来

大田区に150近くある商店街に共通している課題は、事業承継、近隣のスーパーとの差別化、お客さまに満足していただける適切なサービスが提供できているか、商店街として機能しているかなど山積しています。

大田区で唯一残る旧東海道を四商店街で統一のテーマとして発信して行こうと共通の認識が得られるのには困難が幾つもありました。景観整備事業の助成金を頼りに四商店街、地域の自治会、本場乾海苔組合など10団体で旧東海道大森まちづくり協議会を結成し、毎月一回話し合いを継続してきました。

江戸風の正面看板、袖看板、瓦の付け庇、前垂れ暖簾、日よけ、シャッターアートと共通のテーマを決め、約1.1キロに及ぶ商店街が江戸情緒豊かな町並みに変身できるように参加店舗を募りました。結局50店舗が参加し東京都・大田区の補助制度を利用し2012年3月の完成に漕ぎ着けました。一店舗一店舗が間口もそれぞれ違い、ファサード（※注）の取り組みの違いから個々の店舗の金額の合計額が1億5千万円になりました。3月までに建築業者への支払いを済ませ、その領収書を持って区に対して補助金の請求をするのですが、つなぎ資金を無利子で融資していただいた地域の信金さんにも助けられました。

旧東海道大森まちづくり協議会
会長 北山 輝夫さん

その後ミハラ通りを訪れる人は年々多くなり、健康志向とも重なり品川宿や川崎宿の連携も含めて旧東海道の広報を区行政が後押ししていただいたのも感謝です。

来年度ふるさとの浜辺公園は若者が集まる施設へ、リニューアルオープンしますし、大田区はコミュニティサイクルを導入することが決まっています。自然と触れ合える公園として平和の森からふるはま公園は東京23区にあってほかに類を見ないほど緑が多く臨海部も控えている特異な立地と旧東海道は隣接しています。

第二次景観整備事業も進行し更に充実した江戸情緒豊かなファサードができると来街者はさらに増えると思います。

昨今通信手段の激変的進化やAI（人工知能）と結びついた商品はますますオール電化を加速して便利な世の中になるでしょう。

そんな時代にあって、ゆったりと豊かな時間を過ごしたいと思う人間社会の普遍的欲求は何時の時代も変わらないはずです。

私たちの取り組みやサービスが期待に応えられるように品質を上げていかなければなりません。

注：建築物の正面デザインのこと（編集部）

「こらぼ大森」と
「澤田東町会」の

共存共栄

大森澤田東町会
戸谷 勝政さん

今年も恒例の「こらぼ大森夏まつり」に参加し楽しませて頂きました。此度は事前の打合せ会議から参加させて頂き、参加する皆様の前向きな姿勢とご苦労を知る事が出来ました。当町会のイベント参加は当初からで、最初は近隣の方々に持ち寄って開催したように記憶していますが、最近は多方面の方々の色々な趣向で前向きに盛上げようとの姿勢に感銘を受けつつ、それが今後大きなパワーになっていく楽しみと予兆を感じ、楽しくなりました。

開催に於いて各々の団体がより多くの感動が共有できるよう、そして共賛の手助けが隔々まで行渡るようにみんな参加のスタンプラリーも試され、成果があったと思われました。来年、将来に向け、より楽しみの凝縮したラリーをと期待されます。

祭りを行っていく上で意見の違い、価値観の違いはあれど、皆で楽しみ、感動を分かち合う一時はすばらしいと思います。毎年参加させて頂いている当町会の価値観はそれが基本で、出店を機に、提供する方、提供される方、皆で楽しみを共有する。その主旨の元、毎年30名近くの町会人が参加し、各々が自分達のやりくりで運営、楽しみます。祭り終了後の、ご苦労さん

軽宴会。反省会？？？ほぼせず…言いたい放題を楽しんでいます。

又、この「こらぼ大森」は当町会と同じ地区にあり、夏祭りの楽しみを共有するとともに、通常の活動に於いても価値観を共有出来ればと考えます。振返ると、元々は小学校の跡地で出発したこらぼですので、世相を反映し、子供支援の幅を広げ、きめ細やかな活動等を率先してゆく必要が有るのではと考えます（個人意見）。同時に、価値観を共有する事に於いて、こらぼの施設が非常災害避難時に当町会の一次避難所になっていますので、その時の事を想定し役所、消防、警察等との関係を取り当初の避難所を立上げる任も担っています。その時でも、日頃の訓練に伴い、付合い、楽しみ（夏祭り）で知り合った人達と共同し当町会が掲げるような避難所開設が出来ればと思っています。



大森澤田東町会として第13回こらぼ大森夏まつりに出店



地域包括ケアのすすめ

在宅医療推進のための
多職種連携の試み

こらぼ大森2F情報交流室1の図書コーナーで貸出している本をご紹介します

日本社会の高齢化は世界的にも例のない進行をしています。この急激な社会状況の変化に対して、学術的なデータによる研究のみならず、実践をふまえた検証が、社会課題に対する有効なアプローチだと筆者は説きます。

本書では、行政や学識さらには地域医療機関などの連携で推進する「柏プロジェクト」が報告されています。地域包括ケアシステムの有用性と他地域での実践の際に参考になる点が多々あります。とりわけ、街のかかりつけ医のネットワーク連携やそれを支える医療と介護の連携システムの論考から、だれもが地域で安心して住み続けられることの重要性を再認識しました。



編者：東京大学高齢社会
総合研究機構
出版社：東京大学出版会